

## 秋吉台 秋吉台も梅雨入り

山口県も平年よりも13日遅く梅雨入りしました。これから花を咲かせようとしている夏の植物にとっては恵みの雨であり、待ち望んだ季節でもあります。また梅雨という文字通りウメの実のなる頃ですが、今年は収穫量が少ないようです。ウメだけではありません。この時期なら走行中の車窓からも目だっで見えるはずのビワの実も付いていません。そしてまた秋吉台上のタブノキの実もまばらで数えるほどです。他にも花の開花時期がずれていたり、花を咲かせない樹も…。そんな中で、雨の潤いを糧として、また過酷な暑さに耐えながら、植物たちは休むことなく生活を送っているのです。



## 季節の花 かわいも小さな星形の花です !!

**ノラニンジン** セリ科の多年草。白い小さな花がまとまって付きます。「ノラ」という音が素朴な響きを感じて好きです。草原ではあまり見かけませんが、カルストロード沿いで風にふかれてユラユラしているのが微笑ましいです。

**ヒルガオ** 休耕地や道路沿いなどで見かけるヒルガオ科の多年草。アサガオに似ていますが、暑い真昼の陽射しの中でも咲いています。

**コカモメヅルシ** キョウチクトウ科のツル性の多年草。以前見つけた場所でもよく目をこらさないと分かりません。直径5mmほどの小さな星形の可愛い花ですが、午後には閉じてしまいます。



## 観察会「森の昆虫教室・カブトムシ」（6月22日）

観察会「森の昆虫教室・カブトムシ」編を行いました。概要の説明の後、早速エコフィールドへ出て実際に昆虫観察。樹液の染み出たナラガシワの幹にはヒラタクワガタがやって来ていました。同じように蜜を求めてスズメバチもいます。プランターに植えられたパンジーにはツマグロヒョウモンの幼虫がたくさん集まっており、中にはすでにサナギになっているものもありました。

途中から雨が降り始めたので参加者たちは傘やレインコートで雨対策をしながら観察しました。

後半は再びレクチャールームに入って、昆虫標本や珍しいカブトムシ、クワガタムシなどを見ながら説明を聞きました。その後、カブトムシの育て方について学び、角田先生からカブトムシのオス・メスのペアがプレゼントされました。容器から取り出したカブトムシを手にした子供たちは大喜びです。早速、用意してきた飼育ケースに移し入れて飼育観察の準備をしました。



## エダウチヘラオオバコ 初めて見ました・・・

植物図鑑をパラパラとめくっていたらヘラオオバコのページが開きました。どこにでもあって全然珍しいものでもないのだから次のページをめくろうとしたら「エダウチヘラオオバコ」という文字が目にとまりました。花序が枝分かれしているものをそういうとのこと。ヘラオオバコならたくさんあるので、その中にはそれもあるのではないかとあちらこちらと探しましたが、容易には見つかりませんでした。ある時、車を路肩に停めたら左側の車窓から偶然に発見。直ぐに車から降りて確認。いろんな形のものがあるのが分かりました。



## 7月の行事

7月15日(月祝) 観察会「森の昆虫教室・クワガタムシ」

野外のエコフィールドでの昆虫観察とクワガタムシの育て方を学びます。